
第 5 次 広 陵 町 総 合 計 画
(重点プロジェクト (基本目標 1) 素案)

令和 3 年 10 月現在
広 陵 町

第5次総合計画 基本計画 重点プロジェクト素案
目 次

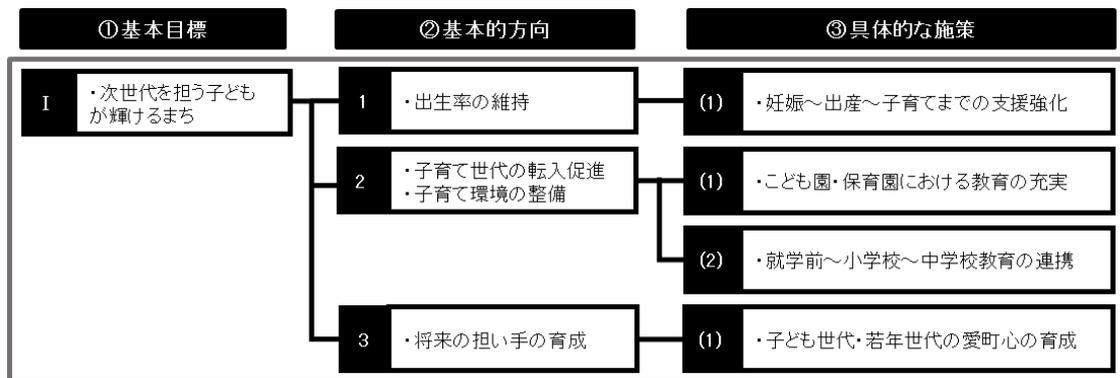
第4章 基本計画	3
1 重点プロジェクト（第2次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略）	3
（1）重点プロジェクトの体系	3
（2）重点プロジェクトの進捗管理	2
（3）基本目標別の施策	3
【基本目標Ⅰ】次世代を担う子どもが輝けるまち	3

第4章 基本計画

1 重点プロジェクト（第2次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略）

（1）重点プロジェクトの体系

「重点プロジェクト」とは、人口減少問題への対応や地域経済の活力の維持・増進など、本町が将来にわたって活力ある地域社会を形成するために、限りある行政の経営資源（財源、職員、施設等）をより無駄なく最適に活用しながら、分野横断的かつ重点的・優先的に推進していく施策群を示したものであり、「第2次広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に該当します。重点プロジェクトの体系は以下のとおりです。

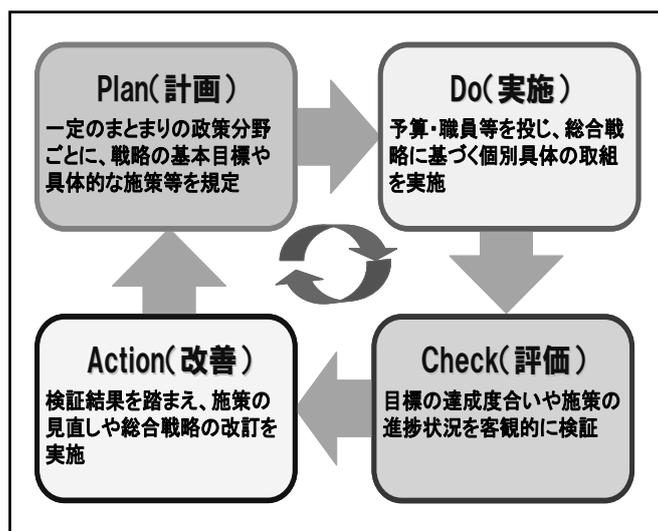


(2) 重点プロジェクトの進捗管理

国の「地方版総合戦略策定のための手引き（平成 27（2015）年 1 月）」では、総合戦略の策定後、実施した施策・事業の効果を客観的に検証し、必要に応じて施策の見直しや総合戦略を改訂するため、「Plan（計画）⇒Do（実施）⇒Check（評価）⇒Action（改善）」のPDCAサイクルを回していくことが必要とされています。

<総合戦略の進捗管理のイメージ>

出典：内閣府地方創生推進室「地方版総合戦略策定のための手引き（平成 27 年 1 月）」に基づき作成



このため、「重点プロジェクト」においても、策定後も継続的かつ客観的に目標の達成度合いと施策の進捗状況を検証するため、次表に示すとおり、基本目標ごとに数値目標を、また、その配下に位置付けた具体的な施策ごとに重要業績評価指標（Key Performance Indicators）を設定し、必要に応じて施策の見直しや総合戦略の改訂に取り組むこととします。

<数値目標・重要業績評価指標の定義と活用方法>

名称	定義	活用方法
数値目標	基本目標ごとに、その達成度合いを検証するために設定	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標は、例えば「有効求人倍率」のように、国・都道府県・市区町村の施策・事業の成果が、総合的な結果として反映される場合があります。 この場合、数値目標の実績値を町単独の施策・事業で直接的にコントロールすることはできないため、目標値の達成が必ずしも前提とはなり得ません。 原則的に数値目標の実績値は、予算・職員等の限りある行政の経営資源のもと、基本目標の配下に位置付けた施策・事業の方向性（拡充・維持・縮減等）を見極めるための判断材料の1つとして活用します。
重要業績評価指標（KPI）	具体的な施策ごとに、その進捗状況を検証するために設定	<ul style="list-style-type: none"> 指標の実績値は、施策が当初の狙いどおりに成果を生み出し、目標の達成に寄与しているのかを検証するために活用します。 狙いどおりの成果を生み出していない場合や、目標の達成に対する寄与度が低い場合には、その要因を分析し、見直し方策を検討します。

(3) 基本目標別の施策

【基本目標Ⅰ】次世代を担う子どもが輝けるまち

【Ⅰ-1】数値目標

目標の名称	指標の説明・出典元	基準値 (対象年)	目標値 (目標年)
年少人口割合	住民課資料	14.47% (令和3年9 月末日)	○ (令和○年)

【Ⅰ-2】基本的方向及び具体的な施策

基本的方向 1 出生率の維持

<基本的方向>

若い世代の結婚や出産に対する希望をかなえ、より多くの方々が地域の中で安心して子どもを産み、安心と喜びを実感しながら子育てに励むことができるよう、結婚や出産を希望する方への支援に積極的に取り組みます。

<具体的な施策>

(1) 妊娠～出産～子育てまでの支援強化

より多くの方が町内で安心して子どもを産むことができ、また、その子どもたちの健やかな成長が促進されるよう、母親の妊娠から出産までのサポート体制を充実させます。

<重要業績評価指標>

指標の名称	指標の説明・出典元	基準値 (対象年)	目標値 (対象年)
4か月児健診の間診表で「産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けられましたか」の項目で、「はい」と答えた人の割合	けんこう推進課資料	86.3% (令和2年)	○ (令和○年)
不妊治療補助金の支給件数	けんこう推進課資料	令和4年度 以降把握 * 令和3年度から実施	○ (令和○年)
1歳6か月児・3歳6か月児健診の間診票で「この地域で、今後も子育てをしていきたいですか。」の項目で「そう思う」と答えた人の割合	けんこう推進課資料	1歳6か月児健診：78.0% 3歳6ヶ月児健診：74.5% (令和2年)	○ (令和○年)
子育て家庭の親子が気軽に集い・交流できる場の拠点数	こども課資料	3 (令和3年)	○ (令和○年)

子育て支援の充実に関する満足度	住民アンケート調査	49.8% (令和元年)	○ (令和○年)
<具体的な取組>			
<ul style="list-style-type: none"> ◆産婦人科や医療機関等との情報共有・連携強化による妊娠期から子育て期の切れ目ない支援の実施 ◆不妊治療補助金の継続 ◆妊婦が安心して出産を迎えるため、妊娠中から相談支援の充実をはかる ◆出産後の母子が健康の保持・増進をはかり、保護者が子育て不安を解消できるよう、新生児訪問やその後のフォロー体制の充実をはかる。 ◆子ども家庭総合支援拠点の設置 ◆地域子育て支援拠点における相談事業の継続 ◆子育て家庭の親子が気軽に集い・交流できる場の提供 ◆子育て世代包括支援センターにおける情報提供 ◆乳幼児健診（4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳6か月児健診）の継続 ◆10～11か月児相談の継続 ◆福祉医療制度による子ども向け医療費助成の継続 ◆町の妊娠・出産・子育て支援事業の対外発信 			

基本的方向 2	子育て世代の転入促進
	子育て環境の整備

<基本的方向>

今後さらに増加する保育ニーズに対応するとともに、子育て世代の転入を促すためにハード・ソフトの両面から子どもの健やかな成長を支える環境の充実を図ります。

<具体的な施策>

(1) こども園・保育園における教育の充実

女性の社会進出と子どもの健やかな成長を支えるために、こども園の整備を進めると同時に、子どもの生きる力を育むための特色ある教育体制の充実を図ります。

<重要業績評価指標>

指標の名称	指標の説明・出典元	基準値 (対象年)	目標値 (対象年)
認可保育所の待機児童数	こども課資料	0人 (令和3年)	○ (令和○年)
認定こども園の整備箇所数	こども課資料	1箇所 (令和3年)	○ (令和○年)
延長保育の実施箇所数(又は年間利用児童数)	こども課資料	8箇所 (令和3年)	○ (令和○年)
一時預かり保育の実施箇所数(又は年間利用児童数)	こども課資料	8箇所 (令和3年)	○ (令和○年)
病児・病後児保育の実施箇所数	こども課資料	3箇所 (令和3年)	○ (令和○年)
放課後子ども育成教室の待機率	こども課資料	0% (令和3年)	○ (令和○年)

<具体的な取組>

- ◆町立幼稚園・保育園の認定こども園¹化の段階的な推進
- ◆認定こども園のカリキュラムの標準化
- ◆町内のこども園、保育園の延長保育の充実
- ◆町内のこども園、保育園の一時預かり保育の充実
- ◆病児・病後児保育の確保
- ◆放課後子ども育成教室の充実
- ◆西校区認定こども園の運営主体との連携による、特色ある教育等の展開
- ◆保育士・幼稚園教諭の将来的な定員管理の観点から正職員の採用を抑制する必要がある中、非常勤職員の採用も抑制しつつ勤務形態を正職員に準ずるものに見直すことで職員の配置を安定させ、また、任用形態にかかわらずその役割に応じた人材育成を行い全体的に職員の質を高める。

¹ 就学前の子どもをもつ保護者の就労の有無に関わらず、幼稚園と保育園の両方の機能と、地域における子育て支援事業を行う機能を備える施設。

(2) 就学前～小学校～中学校教育の連携

広陵町でより子育てしやすい環境にするため、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校との連携を深め、社会教育・家庭教育を含む、特色ある教育を切れ目なく展開します。

<重要業績評価指標>

指標の名称	指標の説明・出典元	基準値 (対象年)	目標値 (対象年)
学校教育の充実に関する満足度	住民アンケート調査	45.9% (令和元年)	○ (令和○年)
プレ幼稚園と併せた小学校のオープンスクール開催回数	教育総務課資料	0 (令和2年)	○ (令和○年)
家庭教育学級(講座)への参加者数	生涯学習文化財課資料	225人 (令和元年度)	○ (令和○年)
子育てに関する必要課題を解決する主催事業数	生涯学習文化財課	0 (令和2年度)	○ (令和○年)

<具体的な取組>

- ◆ 就学前教育から小学校教育への接続を円滑化
- ◆ プレ幼稚園と併せた小学校のオープンスクール開催による教育環境のPR
- ◆ 真美ヶ丘地域における幼小中一貫連携体制モデル校の構築
- ◆ ICTを活用した教育や外国語教育など、時代の変化や新たなニーズに対応した教育の推進
- ◆ PTA等の社会教育団体と連携を図り、家庭教育に関する保護者の学習機会や情報提供を充実化
- ◆ 地域活動を通じて、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、次代を担う人づくりの一環として、子ども・若者の地域コミュニティに参画できる環境づくりを推進
- ◆ 子育てに関する必要課題の解決やその解決力の向上を図るための生涯学習を推進
- ◆ 幼保小中における文化芸術鑑賞及び体験型学習を推進

基本的方向 3 町の将来の担い手の育成

< 基本的方向 >

少子高齢化が進む中で町の将来を担う生産年齢人口を維持するために、町で育った若者に地域に住み続けてもらう・戻ってきてもらうための施策を展開します。

(1) 子ども世代・若年世代の地域を愛する心を育成

広陵町の子どもや若者が、将来にわたって町に住み続けられる、または、一度離れても町に戻りたくなるよう、地域を愛する心を醸成する教育を進めます。

< 重要業績評価指標 >

指標の名称	指標の説明・出典元	基準値 (対象年)	目標値 (対象年)
広陵町のが好き・どちらかといえば好きと回答した小学生の割合	教育総務課資料	令和3年度 調査予定	○ (令和○年)
広陵町のが好き・どちらかといえば好きと回答した中学生の割合	教育総務課資料	令和3年度 調査予定	○ (令和○年)
町のことを考える住民向けワークショップの実施回数	企画政策課資料	3回 (令和元年)	○ (令和○年)
世代間交流や異年齢児交流を行う主催事業数	生涯学習文化財課資料	0 (令和2年)	○ (令和○年)

< 具体的な取組 >

- ◆ 就学前教育における地域を愛する心を育成する教育の実施
- ◆ 地域とのふれあいを通じて地域を愛する心を育成するカリキュラムの実践
- ◆ 高校生までを対象とした地域を愛する心を育成するワークショップの実施
- ◆ 子ども・若者が地域社会の中でさまざまな活動や世代間交流、異年齢児交流等を体験できる機会を創出